別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基本計画		
事項	記入欄	備考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　ミヤギガクイン 学校法人　宮城学院	
フリガナ 大学の名称	ミヤギガクインジョシダイガク 宮城学院女子大学　(Miyagi Gakuin Women’s University)	
大学本部の位置	宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号	
大学の目的	本大学は、福音主義キリスト教に基づく高等教育を行い、神を敬い、真理を愛し、すべての人々と社会に対してすすんで愛と奉仕の責任を果たし、人類の福祉と平和に貢献できる国際感覚豊かな女性を育成することを以って目的とする。	
新設学部等の目的	実践重視の教育課程によって、現代社会で必要とされる英語力とコミュニケーション能力、またメディアを使った情報発信能力を身につける。それと同時に、コミュニケーションの基礎となる言語の機能や仕組み等「言語文化」に関する専門知識や、文学・演劇・美術等言語を主軸とする多様な「メディア文化」について幅広く学ぶ。こうして得られた「言語文化」や「メディア文化」に関する高度な専門知と確かなメディアリテラシーをもって、人と人、社会と社会とのつながりを構築し、地域社会や国際社会に貢献できる人材を養成する。	

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	備考
		年	人	年次 人	人			年　月 第　年次		
	学芸学部 英語文化コミュニケーション学科	4	70	－	280	学士（英語文化コミュニケーション学）	文学関係	令和8年4月 第1年次	宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号	
	計	4	70	－	280					

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	備考
学芸学部 英文学科（廃止）　（△70） ※令和8年4月学生募集停止	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	学芸学部英語文化コミュニケーション学科	53科目	57科目	10科目	120科目	124単位

学部等の名称		基幹教員 教授	准教授	講師	助教	計	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
		人	人	人	人	人	人	人	
新設分	学芸学部　英語文化コミュニケーション学科	4 (4)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	7 (7)	0 (0)	91 (91)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	7 (7)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (4)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	7 (7)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 (4)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	7 (7)			
	計	4 (4)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	7 (7)	0 (0)	－ (－)	

既設分									
現代ビジネス学部　現代ビジネス学科	7 (7)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	57 (57)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	12 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	7 (7)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	12 (12)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	7 (7)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	12 (12)			
教育学部　教育学科	人 18 (18)	人 11 (11)	人 0 (0)	人 3 (3)	人 32 (32)	人 0 (0)	人 267 (267)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	18 (18)	11 (11)	0 (0)	3 (3)	32 (32)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	18 (18)	11 (11)	0 (0)	3 (3)	32 (32)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	18 (18)	11 (11)	0 (0)	3 (3)	32 (32)			
生活科学部　食品栄養学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	84 (84)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
生活科学部　生活文化デザイン学科	4 (4)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	7 (7)	0 (0)	117 (117)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	7 (7)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	4 (4)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	7 (7)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	4 (4)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	7 (7)			

既設分	学芸学部　日本文学科	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	96 (96)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)			
	学芸学部　心理行動科学科	4 (5)	4 (5)	0 (0)	0 (0)	8 (10)	0 (0)	74 (74)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (5)	4 (5)	0 (0)	0 (0)	8 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (5)	4 (5)	0 (0)	0 (0)	8 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 (5)	4 (5)	0 (0)	0 (0)	8 (10)			
	学芸学部　人間文化学科	4 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (7)	0 (0)	92 (92)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (7)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (7)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (7)			
	学芸学部　音楽科	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	90 (90)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
	計	58 (60)	28 (29)	0 (0)	6 (6)	92 (95)	0 (0)	－ (－)	
合　計		62 (64)	29 (30)	0 (0)	8 (8)	99 (102)	0 (0)	－ (－)	

職種	専属	その他	計	
事務職員	人 70 (70)	人 21 (21)	人 91 (91)	
技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
図書館職員	1 (1)	10 (10)	11 (11)	
その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
指導補助者	0 (0)	4 (4)	4 (4)	
計	71 (71)	35 (35)	106 (106)	

校地等 区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
校舎敷地	102,418㎡	16,028㎡	44,675㎡	163,121㎡	宮城学院高等学校・宮城学院中学校（必要面積14,400㎡）と共用（収容定員：高等学校780名、中学校480名）
その他	19,928㎡	24,278㎡	14,326㎡	58,532㎡	
合計	122,346㎡	40,306㎡	59,001㎡	221,653㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	33,503㎡ (33,503㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	33,503㎡ (33,503㎡)	

教室・教員研究室	教室	114室	教員研究室	7室	

図書・設備 新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	電子図書〔うち外国書〕	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
学芸学部英語文化コミュニケーション学科	394,500〔97,779〕 (388,616〔97,211〕)	1,126〔48〕 (866〔48〕)	32,076〔23,573〕 (32,076〔23,573〕)	22,787〔22,783〕 (22,787〔22,783〕)	1,709 (1,709)	0 (0)	学部等単位での特定不能なため、大学全体の数
計	394,500〔97,779〕 (388,616〔97,211〕)	1,126〔48〕 (866〔48〕)	32,076〔790〕 (32,076〔790〕)	22,787〔22,783〕 (22,787〔22,783〕)	1,709 (1,709)	0 (0)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	
	5,323.17㎡	2,236.58㎡	1,314.94㎡	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要 経費の見積り 区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
教員１人当り研究費等		432千円	432千円	432千円	432千円	－ 千円	－ 千円	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
共同研究費等		3,200千円	3,200千円	3,200千円	3,200千円	－ 千円	－ 千円	
図書購入費	1,910千円	1,910千円	3,820千円	5,730千円	7,640千円	－ 千円	－ 千円	
設備購入費	36,417千円	43,780千円	50,600千円	55,000千円	61,600千円	－ 千円	－ 千円	
学生１人当り納付金		第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
		1,301千円	1,061千円	1,061千円	1,061千円	－ 千円	－ 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大等経常費補助金収入、補助金収入、寄付金収入、手数料収入、資産運用収入　等						

既設大学等の状況	大学等の名称	宮城学院女子大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	現代ビジネス学部						1.05		宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号
	現代ビジネス学科	4	95	－	380	学士（現代ビジネス学）	1.05	平成28年度	
	教育学部						1.01		
	教育学科	4	190	－	700	学士（教育学）	1.01	平成28年度	
	生活科学部						0.99		
	食品栄養学科	4	100	－	400	学士（食品栄養学）	1.09	平成12年度	
	生活文化デザイン学科	4	60	－	240	学士（生活文化デザイン学）	0.84	平成17年度	
	学芸学部						0.92		
	英文学科	4	70	－	280	学士（英文学）	0.71	昭和24年度	
	日本文学科	4	100	－	400	学士（日本文学）	0.94	昭和39年度	
	人間文化学科	4	35	－	245	学士（人間文化学）	0.76	平成7年度	
	心理行動科学科	4	80	－	260	学士（心理学）	1.33	平成19年度	
	音楽科	4	20	－	95	学士（音楽）	0.62	昭和24年度	
	人文科学研究科								
	英語・英米文学専攻（修士課程）	2	4	－	8	修士（英文学）	0.38	平成7年度	
	日本語・日本文学専攻（修士課程）	2	4	－	8	修士（日本文学）	0.00	平成7年度	
	人間文化学専攻（修士課程）	2	4	－	8	修士（人間文化学）	0.00	平成11年度	
	生活文化デザイン学専攻（修士課程）	2	4	－	8	修士（生活文化デザイン学）	0.13	平成17年度	
	健康栄養学研究科								
	健康栄養学専攻（修士課程）	2	4	－	8	修士（健康栄養学）	0.75	平成20年度	

附属施設の概要	
	名　　称：附属認定こども園 目　　的：幼児教育に関する研究および実習施設 所 在 地：宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号 設置年月：1956年短大に設置、2001年4月大学に設置、2015年幼稚園から認定こども園へ 規 模 等：土地2,500㎡、建物998㎡
	名　　称：附属音楽教室 目　　的：音楽の実技を体系的に学ぶ施設 所 在 地：宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号 設置年月：1960年学校法人に設置 規 模 等：大学共用
	名　　称：キリスト教文化研究所 目　　的：学術的研究の推進 所 在 地：宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号 設置年月：1966年 規 模 等：大学共用
	名　　称：生活環境科学研究所 目　　的：学術的研究の推進 所 在 地：宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号 設置年月：1967年 規 模 等：大学共用
	名　　称：発達科学研究所 目　　的：学術的研究の推進 所 在 地：宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号 設置年月：1991年 規 模 等：大学共用
	名　　称：人文社会科学研究所 目　　的：学術的研究の推進 所 在 地：宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号 設置年月：1991年 規 模 等：大学共用

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（学芸学部英語文化コミュニケーション学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
一般教育科目	ＭＧＵスタンダード科目	キリスト教学	1前		2			○								1	
		キリスト教と現代社会	3後		2			○								1	
		基礎演習	1前		2				○		1			1		22	
		日本語演習	1前		2				○							11	
		女性と人権	1前		2			○								1	
		自然科学入門	1前		2			○								1	
		音楽の世界	1前		2			○								1	
		生活と福祉	2後		1			○								1	
		小計（8科目）	－	－	15	0	0	－			1	0	0	1	0	34	
	リベラルアーツ基幹科目	リベラルアーツ基礎Ａ	1後		2			○								1	
		リベラルアーツ基礎Ｂ	1後		2			○			1					8	
		リベラルアーツ基礎Ｃ	2前		2			○								6	
		リベラルアーツ基礎Ｄ	2前		2			○								6	
		リベラルアーツ総合Ａ	2後		2			○								8	オムニバス
		リベラルアーツ総合Ｂ	3前		2			○								8	オムニバス
		リベラルアーツスタディーズＡ	3後		2			○								17	一クラスのみ共同
		リベラルアーツスタディーズＢ	4前		2			○								13	
		小計（8科目）	－	－	16	0	0	－			1	0	0	0	0	43	
	キャリア科目	ライフワーク論	3後		2			○								1	
		キャリア形成論	4前・後			2		○								1	
		情報処理	1後			2			○							2	
		日本国憲法	3後			2		○								1	
		小計（4科目）	－	－	2	6	0	－			0	0	0	0	0	4	
	外国語科目	ドイツ語コミュニケーションⅠ	1前			1			○							1	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	1後			1			○							1	
		ドイツ語リテラシーⅠ	1前			1			○							1	
		ドイツ語リテラシーⅡ	1後			1			○							1	
		フランス語コミュニケーションⅠ	1前			1			○							2	
		フランス語コミュニケーションⅡ	1後			1			○							2	
		フランス語リテラシーⅠ	1前			1			○							1	
		フランス語リテラシーⅡ	1後			1			○							1	
		中国語コミュニケーションⅠ	1前			1			○							4	
		中国語コミュニケーションⅡ	1後			1			○							4	
		中国語リテラシーⅠ	1前			1			○							3	
		中国語リテラシーⅡ	1後			1			○							3	
		朝鮮語コミュニケーションⅠ	1前			1			○							1	
		朝鮮語コミュニケーションⅡ	1後			1			○							1	
		朝鮮語リテラシーⅠ	1前			1			○							1	
		朝鮮語リテラシーⅡ	1後			1			○							1	
		スキルアップドイツ語	2・3・4前・後			1			○							2	
		スキルアップフランス語	2・3・4前・後			1			○							2	
		スキルアップ中国語	2・3・4前・後			1			○							2	
		スキルアップ朝鮮語	2・3・4前・後			1			○							2	
		実践フランス語Ⅰ	2・3前・後			2			○		1						
		実践フランス語Ⅱ	3・4前・後			2			○		1						
		実践中国語Ⅰ	2・3前・後			2			○							1	
		実践中国語Ⅱ	3・4前・後			2			○							1	
		小計（24科目）	－	－	0	28	0	－			1	0	0	0	0	18	
	体育科目	体育実技	1前		1					○						1	
		体育講義	2後			1		○								1	
		シーズンスポーツ	1・2・3・4前・後			1				○						1	
		スポーツ	2・3・4後			1				○						1	
		小計（4科目）	－	－	1	3	0	－			0	0	0	0	0	3	
専門教育科目	英語技能科目 English Skills	Speaking & Listening Ⅰ	1前	○	2				○		1					2	
		Speaking & Listening Ⅱ	1後	○	2				○		1					2	
		Speaking & Listening Ⅲ	2前		2				○		1					2	
		Speaking & Listening Ⅳ	2後		2				○		1					2	
		Intensive Reading Ⅰ	1前	○	1				○			1		1			
		Intensive Reading Ⅱ	1後	○	1				○			1		1			
		Extensive Reading Ⅰ	2前		1				○		1						メディア
		Extensive Reading Ⅱ	2後		1				○		1						メディア
		Writing	1前	○	1				○		1					1	
		Writing & Vocabulary	1後	○	2				○		1					1	
		Writing－Short Essay	2前		2				○							2	
		Writing－Long Essay	2後		2				○							2	
		Academic Writing	3後			2			○							2	
		Presentation in English	3後			2			○		1						
		Integrated English Ⅰ	3・4前			2			○		1						
		Integrated English Ⅱ	3・4後			2			○		1						
		English Certification　Ⅰ	1・2・3・4後			2				○	1						
		English Certification　Ⅱ	1・2・3・4後			2				○	1						
		English Certification　Ⅲ	1・2・3・4後			2				○	1						
		小計（19科目）	－	－	19	14	0	－			2	1	0	1	0	5	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	ことばのしくみ	1前	○	1			○			1						
			コミュニケーションと文法	1後	○	1			○			1						
			ことばの世界（基礎）	1前			2		○								1	
			ことばの世界（発展）	1後			2		○								1	
			英語発音法（基礎）	2前			2		○								1	
			英語発音法（発展）	2後			2		○								1	
			ことばと心理	2前			2		○								1	
			心理言語学	2後			2		○								1	
			手話コミュニケーション（基礎）	2前			2			○							1	
			手話コミュニケーション（発展）	2後			2			○							1	
			英語の歴史	2前			2		○								1	
			ことばと情報	3前			2		○			1						
			ことばと社会	3･4前			2		○								1	
			社会言語学	3･4後			2		○								1	
			言語学とコミュニケーション（音声学・音韻論・形態論）	3･4前	○		2		○			1						
			言語学とコミュニケーション（統語論・意味論・語用論）	3･4後	○		2		○			1						
			世界の言語	1後			1			○		1					1	
			小計（17科目）	―	―	2	29	0		―		2	0	0	0	0	6	
		メディア文化系科目	異文化理解	1前	○		2		○			1						
			異文化交流	1後	○		2		○			1						
			メディア概論	2前	○		2		○			1						
			メディアリテラシー	2後	○		2		○						1			
			メディア文化史I	2前			2		○			1						
			メディア文化史II	2後			2		○			1						
			コミュニケーションとしての英語小説（アメリカ）	2前	○		2		○						1			
			コミュニケーションとしての英語小説（イギリス）	2後	○		2		○				1					
			アートとしての英語詩（イギリス）	2前			2		○								1	
			アートとしての英語詩（アメリカ）	2後			2		○								1	
			イギリス文学入門	2前	○		2		○				1					
			アメリカ文学入門	2後	○		2		○						1			
			物語論/映画論	3･4前			2		○						1			
			演劇/パフォーマンス	3･4後			2		○			1	1		1			オムニバス
			SF的想像力と社会	3･4前			2		○				1					
			グローバリゼーション時代の文学	3･4後			2		○						1			
			アートとメディア	3･4前			2		○			1						
			アートとエンターテインメント	3･4後			2		○			1						
			小計（18科目）	―	―	0	36	0		―		3	1	0	2	0	1	
	専門発展科目	コミュニケーション演習科目	コミュニケーション基礎セミナー	1前	○		2			○		4	1		2			オムニバス
			メディアコミュニケーション基礎	2前	○		2			○		1			1			
			メディアコミュニケーション実践	2後	○		2			○		1			1			
			専門セミナー（言語文化）A	3前	○		2			○		1						
			専門セミナー（言語文化）B	3後	○		2			○		1						
			専門セミナー（メディア文化）A	3前	○		2			○		2	1		2			
			専門セミナー（メディア文化）B	3後	○		2			○		2	1		2			
			小計（7科目）	―	―	0	14	0		―		4	1	0	2	0	0	
		コミュニケーション実践科目	グローバルコミュニケーション実習	1･2･3･4通			2				○	2	1		1			分担
			文化コミュニケーション実習	2･3･4通			2				○	2						隔年　分担
			海外研修（事前学習）	2･3･4前			2		○			3	1		1		1	分担
			海外研修	2･3･4後			4				○	3	1		1		1	分担
			小計（4科目）	―	―	0	10	0		―		3	1	0	1	0	1	
		キャリア支援科目	キャリアデザイン（基礎）	1通		1			○								1	
			キャリアデザイン（発展）	2通		1			○								1	
			ビジネスコミュニケーション	2前			2			○							1	
			インターンシップ	2後			2				○	1	2		1			分担
			小計（4科目）	―	―	2	4	0		―		2	1	0	1	0	2	
		卒業研究	卒業研究セミナーA	4前	○	2				○		2	2		2			
			卒業研究セミナーB	4後	○	2				○		2	2		2			
			卒業論文・制作	4後	○	4				○		2	2		2			
			小計（3科目）	―	―	8	0	0		―		3	1	0	2	0	0	
合計（120科目）				―	―	65	144	0		―		4	1	0	2	0	91	

学位又は称号	学士（英語文化コミュニケーション学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
次の条件を満たし、合計で124単位を修得すること。 Ⅰ．一般教育科目は、以下の要件を満たして34単位を修得すること。 「MGUスタンダード科目」必修8科目15単位を修得。 「リベラルアーツ基幹科目」必修8科目16単位を修得。 「キャリア科目」必修１科目2単位を取得。 「体育科目」必修1科目1単位を修得。 II.専門教育科目は、次の要件を満たし78単位を修得すること。 「英語技能科目」必修12科目19単位を修得。 「専門基幹科目」必修2科目2単位および選択科目34単位の計36単位修得。 「専門発展科目」必修5科目10単位および「専門セミナー（言語文化）A」と「専門セミナー（言語文化）B」又は「専門セミナー （メディア文化）A」と「専門セミナー （メディア文化）B」のいずれかの組み合わせで選択必修2科目4単位を修得。このほかに選択3科目5単位の計10科目19単位を修得。 「専門教育科目」の4年次配当選択科目から4単位を修得。 III.その他に専門教育科目と一般教育科目から12単位を修得する。 履修科目の登録の上限：48単位（年間）	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（学芸学部英語文化コミュニケーション学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
一般教育科目	MGUスタンダード科目	キリスト教学		「キリスト教学」は、「聖書入門」として、欧米の歴史や文化に深い影響を及ぼしてきたキリスト教の思想的源泉である「聖書」の全体像、文学的・歴史的特徴、基本精神などを中心に学ぶ。「聖書」には、「いのち」「平和」「正義」などの重要な諸原理に関する洞察が内包されており、受講生は、その中の具体的な物語や知恵の言葉などをとおして、現代にも通用する古代人の世界観や人間観に出会い、自分自身の生き方を考えることができる。	
一般教育科目	MGUスタンダード科目	キリスト教と現代社会		「キリスト教と現代社会」は、1年次配当必修科目「キリスト教学」の応用編である。伝説に覆われ、断片的な部分が多い各福音書（マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ）には、種々のイエスの言葉やイエスにまつわる多様な物語が伝承として数多く記録されている。それらを手がかりとしてある程度学問的に復元できるイエスの思想の輪郭を学ぶことにより、貧困や格差、社会的不公平などに関する批判的観察眼と他者の痛みを共有する感性を養う。	
一般教育科目	MGUスタンダード科目	基礎演習		様々なテーマ設定をもとに、資料やデータをいかに探すか、収集した資料やデータをいかに読み解くか、ディスカッションを通じて問題点をいかに理解し、解決方法を考えるか、それらをレポートや口頭発表という形でいかに第三者に伝えるかなど、大学や一般社会における基本的かつ総合的なスタディ・スキル及びコミュニケーション・スキルの修得を主とした実践的な演習を行う。初年次における導入教育の中核として位置づけ、全学規模での少人数クラスによる徹底した指導を目指す。	
一般教育科目	MGUスタンダード科目	日本語演習		大学の学びや社会における活動を進めるうえで必要な日本語運用能力を高めるため、論理的な文章を適切に書く能力の習得を目指す。日本語文章表現における基本的な体裁やルールの把握、語彙力の強化、文章を構成する際の着想・構想に対する考え方や論じ方、文章表現をわかりやすくかつ内容豊かにするための工夫などについて、添削などによる実践的訓練を行う。初年次における導入科目の中核として位置づけ、全学規模での少人数クラスによる徹底した指導を目指す。	
一般教育科目	MGUスタンダード科目	女性と人権		女子教育を推進する本学として、学生全員が女性について考え、理解するための基礎的な知識や方法を教授する。日本あるいは世界における、女性の社会的役割、女性の人権をめぐる歴史や現状を学ぶことにより、現代社会やそれが抱える問題に対する理解を深めるとともに、女子教育を推進する本学のあり方と意義を認識し、学生自身の自己理解を深め、自分を大切にする思想を育成し、自分の生涯にわたる人生を主体的に生きるための基礎的な力を養う。	
一般教育科目	MGUスタンダード科目	自然科学入門		自然科学系導入科目として、自然科学の基礎知識を身につけるだけでなく、具体的な事例を用いて仮説のたて方や検証の仕方、データの読み方やまとめ方などを学び、論理的思考力を養うことを目的とする。現代社会を支えている自然科学の成果だけでなく、自然科学だけでは対処しきれない問題、たとえば温暖化などを題材に、学際的研究・学際的思考の重要性を学ぶとともに、人文科学や社会科学など関連諸科学と自然科学の接点を探る機会を設ける。	
一般教育科目	MGUスタンダード科目	音楽の世界		「音楽」教育は宮城女学校開学当時から本学が目指すキリスト教主義に基づく女子教育の柱のひとつに位置づけられていた。「音楽の世界」は、その長年蓄積してきた「音楽」専門教育の枠を、本学独自の魅力をもつ教養として全学生が享受できる体制をとるものである。また、そこではともに音楽を奏でる経験を通じて自然な共同体意識を熟成し、本学学生としての帰属意識を育てることにより、導入教育として有効に機能させることも目的とする。	
一般教育科目	MGUスタンダード科目	生活と福祉		本学の掲げるキリスト教主義の精神に基づいて、福祉の心を育てる。福祉の原点を知り、現代社会を読み、社会保障問題や福祉問題について考えることで、福祉社会の構築に貢献できる人材を育てる。具体的には、様々な問題を抱える現代社会を読み解く手がかりとして、日本の社会保障制度・社会福祉制度についての基本的理解を得る。また、国家制度以外にも、福祉に参入する企業や社会に貢献している社会的活動について理解し、自らの社会参画のあり方を考えさせる。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
一般教育科目	リベラルアーツ基幹科目	リベラルアーツ基礎Ａ		リベラルアーツとは、人間が主体的に生きるために必要とされる知識や手法のことを指す。近年、コンピュータを中心とする情報通信技術（ICT）は、個々の仕事を支援するだけではなく、人々をつなぎ、組織や国々をつなぎ、重要な社会基盤として定着している。また、通信の高速化・大規模化によってもたらされる大量のデータの利活用が注目されている。「基礎A」では、ICTと関連する分野や「データサイエンス」とよばれる分野について幅広く学び、それらがこれからの私たちの生活や社会についてどのように関わるかを考察する。	
一般教育科目	リベラルアーツ基幹科目	リベラルアーツ基礎Ｂ		リベラルアーツとは、人間が主体的に生きるために必要とされる知識や手法のことを指す。「基礎B」は本学を構成する学部・学科のそれぞれの学びの基本的な体系や意義を本学ならではの「教養」と位置づけたものである。所属する学科の専門分野とは異なる人文・社会科学分野の基礎を理解・学ぶことを通して、それぞれの学問のあり方や相互の関係性を認識させ、学問のあり方を相対化するとともに、一つの専門分野にとらわれない広い視野をもった人材を育成する。	
一般教育科目	リベラルアーツ基幹科目	リベラルアーツ基礎Ｃ		リベラルアーツとは、人間が主体的に生きるために必要とされる知識や手法のことを指す。この科目は自然科学系発展科目として、「数学」「物理学」「化学」「地学」「生物学」のいずれかについて、これまでに何が明らかになり、何が明らかになっていないのか、いま何が問題となっているのかを学ぶ。最新の成果を学ぶだけでなく、問題解決にいたった具体的な道筋を学ぶことで、自然科学特有のものの見方や考え方を理解することを目的とする。また、自然科学の手法の有効性と限界を学び、自然科学とは何か、自然科学はどうあるべきかを考える機会を設ける。	
一般教育科目	リベラルアーツ基幹科目	リベラルアーツ基礎Ｄ		リベラルアーツとは、人間が主体的に生きるために必要とされる知識や手法のことを指す。「基礎D」は本学を構成する学部・学科のそれぞれの学びの基本的な体系や意義を本学ならではの「教養」と位置づけたものである。所属する学科の専門分野とは異なる人文・社会科学分野の基礎を理解・学ぶことを通して、それぞれの学問のあり方や相互の関係性を認識させ、学問のあり方を相対化するとともに、一つの専門分野にとらわれない広い視野をもった人材を育成する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
一般教育科目	リベラルアーツ基幹科目	リベラルアーツ総合Ａ		（概要）リベラルアーツとは、人間が主体的に生きるために必要とされる知識や手法のことを指す。この科目では現代社会を理解するうえで重要と考えられる総合的なテーマ、例えば「ことば」「生命」「平和」などを設け、それぞれのテーマにつき、異なる分野や視点を持つ2人の教員がそれぞれに小テーマを設けて、オムニバスで講義を行う。一つのテーマを複数の視点から学ぶことで、視点が異なれば同じものを見ても全く違うものに見えることを実際に体験する機会を設ける。問題に対して広い視野から物事を見つめ、総合的に考察する力を養う。 （オムニバス方式/全15回） 【東北】 （25　高橋 陽一/8回） 東北や東北人が歴史的にどのように認識されてきたのかを明らかにする。全体まとめ。 （51　佐藤 雅也/7回） 「よりしろ」を題材に、身のまわりにある民俗文化の意義と特徴を考える 【ことば】 （38　木口 寛久/8回） ことばを学問研究対象とするとはどういうことなのかを考察する。全体まとめ。 （34　志村 文隆/7回） 「コミュニケーション力とは何か」を、ことばの性質の視点から理解する 【生命】 （12　近松 健/7回） 地球外生命を題材に，われわれがどのようにして誕生し，宇宙のなかでどのような存在なのか，を考える （11　田中 一裕/8回） 極地や砂漠といった物理的に厳しい環境に生息する生物の環境適応のあり方を概観するとともに、地球外生命が存在する可能性について考える。全体まとめ。 【平和】 （36　 松本 周/8回） 聖書とキリスト教の平和理解を学ぶ。全体まとめ。 （29　早矢仕 智子/7回） 「平和教育」や「積極的平和」構築の重要性を学ぶ	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
一般教育科目	リベラルアーツ基幹科目	リベラルアーツ総合Ｂ		（概要）リベラルアーツとは、人間が主体的に生きるために必要とされる知識や手法のことを指す。この科目では、現代社会を理解するうえで重要と考えられる総合的なテーマ、例えば「災害」「ジェンダー」「探究」などを設け、それぞれのテーマにつき、異なる分野や視点を持つ2人または4人の教員がそれぞれに小テーマを設けて、オムニバスで講義を行う。一つのテーマを複数の視点から学ぶことで、視点が異なれば同じものを見ても全く違うものに見えることを実際に体験する機会を設ける。問題に対して広い視野から物事を見つめ、総合的に考察する力を養う。 （オムニバス方式/全15回） 【ジェンダー構造とメディア】 （45　川口 かしみ/8回） 現在の女性を位置づけている社会状況を「規範」という側面から解説し、「差別」や「構造」として説明される現状を批判的に検討する。全体まとめ。 （35　藤田 嘉代子/7回） 女性や男性について、メディアでどのようなイメージで描かれやすいか現状の問題点と課題を理解する。ジェンダー・センシティブな感性とメディアリテラシーを身につける。 【探究】 （10　小羽田誠治/4.5回） 「コピペはダメなのか？」をテーマに探究の手法、レポートの書き方を学ぶ （11　田中一裕/3.5回） 問いの立て方、仮説検証の仕方を自然科学の事例を通して学ぶ （36　松本周/3.5回） 問いの立て方、仮説検証の仕方をキリスト教学の事例を通して学ぶ （97　渡辺圭佑/3.5回） 問いの立て方、仮説検証方法をスポーツ科学の事例を通して学ぶ 【労働とジェンダー】 （32　石田 依子/8回） 「女性労働」の特徴を国ごとに比較する。全体まとめ。 （86　天童 睦子/7回） 労働とジェンダーの現代的課題～グローバル・ローカルをつなぐ	オムニバス方式
一般教育科目	リベラルアーツ基幹科目	リベラルアーツ スタディーズＡ		リベラルアーツとは、人間が主体的に生きるために必要とされる知識や手法のことを指す。この科目では、各担当教員の専門性を活かした講義を、広く学科の枠を超えて開講することにより、専門研究に取り組むなかで、別の分野からの視点を取り入れることで、新しい発想や視点を得る。また、それにより学問を相対化し、学生自身が専門的に取り組むテーマとの関連を見つけ出す可能性を開き、個別研究の枠を超えた学問そのものに対する理解を深める。専門課程が進むなかでの教養教育という、本学の特色ある科目と位置づけ、多種多様なメニューを提供し、学生の視野を広げることを目指す。	一クラスのみ共同
一般教育科目	リベラルアーツ基幹科目	リベラルアーツ スタディーズＢ		リベラルアーツとは、人間が主体的に生きるために必要とされる知識や手法のことを指す。この科目では、各担当教員の専門性を活かした講義を、広く学科の枠を超えて開講することにより、専門研究に取り組むなかで、別の分野からの視点を取り入れることで、新しい発想や視点を得る。また、それにより学問を相対化し、学生自身が専門的に取り組むテーマとの関連を見つけ出す可能性を開き、個別研究の枠を超えた学問そのものに対する理解を深める。専門課程が進むなかでの教養教育という、本学の特色ある科目と位置づけ、多種多様なメニューを提供し、学生の視野を広げることを目指す。	
一般教育科目	キャリア科目	ライフワーク論		この科目では、社会、労働、生活、文化など多様な領域において女性の状況を学び、社会や地域に様々な立場から貢献しうる生き方、学び方、働き方を自ら考え、創造する力を養う。ジェンダー論やフェミニズム批評理論の知識をふまえて、女性のライフコースの現状と課題を考察する。また大学での専門的な学びを活かして、日常生活の様々な場において女性が抱える困難についての社会的・文化的背景の要因を分析し、女性のエンパワメントに向けた現代の課題を探求する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
一般教育科目	キャリア科目	キャリア形成論		学生のキャリアをどう考え、どのように形成していくかという問題は、大学教育においてもすでに重要な課題となっているが、大学はこれを単に大学4年間の教育課程あるいは課外活動の枠内においてのみ推進・保証すれば良いのではないという視点に立ち、大学卒業を目前に控えた学生に対して、社会に出た後を見据えたキャリアのデザインについて考える機会を提供し、キャリア意識の向上に資する。具体的には、女性の生き方と働き方の現状を把握し、キャリア形成の課題を探求するとともに、女性を取り巻く社会、労働、生活、文化における課題を発見し、挑戦的な視座を構築できるようになることを目指す。また、自らの人生設計とキャリアデザインの構築に主体的に取り組む力を養う。	
一般教育科目	キャリア科目	情報処理		大学での学習や社会での様々な活動において必要となるパソコンの実際的な操作方法を学ぶ。文書作成ソフトでは、ワープロによる文書作成、表計算による数値処理に取り組むとともに、図や表の作成方法やレイアウトの工夫の仕方を学ぶ。また表計算ソフトを使って、数値データを処理し、グラフ等を作成する方法を身につける。単に操作方法を知るというだけではなく、パソコンを使った一連の作業を通じて、工夫をするとは、順序だてて考えるとは、いったいどういうことなのかを身につける。	
一般教育科目	キャリア科目	日本国憲法		憲法という法が現代日本法の中でどのような役割を果たしているかについて講義し、広く憲法の特質について理解を図る。特に、近年の政治状況の中で、現在の憲法を改正、あるいは全面的に作り直そうとする主張や動向が表面化してきていることにより、戦後のアメリカによる占領下において制定されたといういきさつを理解したうえで、国民主権、恒久平和主義、人権宣言、国会、内閣、裁判所といった事柄を鍵として、日本国憲法を評価できる素材を提供することを本講義の目的とする。	
一般教育科目	外国語科目	ドイツ語 コミュニケーションI		グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるべく、英語以外の外国語の一つとして、ドイツ語による会話を行うための基礎力を養う。具体的には、ドイツ語の発音になれ、つづりと音の関係をつかむ、現在時称で基本的な表現ができるようにする、格の基本的な使われ方を理解する、簡単な文型に慣れる、など、日常でよく使われる簡単な語彙と表現を身に着ける。併せて、聞き取る能力を育てるとともに、ドイツの社会や生活、文化についての理解を深める。	
一般教育科目	外国語科目	ドイツ語 コミュニケーションII		「ドイツ語コミュニケーションⅠ」に引き続き、グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるべく、英語以外の外国語の一つとして、ドイツ語による会話を行うための語彙・表現のさらなる習得を目指す。具体的には、多様な動詞の形に慣れる、多様な時称を理解し運用する。より複雑な文型に慣れる。などの能力を身に着け、初歩的な文法規則を使って日常必要な簡単なコミュニケーションができるようにする。ドイツの社会や生活、文化についての理解をさらに深める。	
一般教育科目	外国語科目	ドイツ語リテラシーI		グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるべく、英語以外の外国語の一つとして、ドイツ語による読み書きを行うための文法・語彙の基礎を学ぶ。具体的には、発音、つづりと音の関係、動詞の現在時称、格の用法と冠詞類の変化、基本的な文型などを学習する。また、辞書の使い方を学び、習得した文法知識を基に簡単なドイツ語の表現を理解し、初歩的な運用ができるようにする。英語との共通点や相違点を明確に意識し学習することにより、言語の構造や表現形式の持つ多様性を認識し、併せて英語への理解も深める。	
一般教育科目	外国語科目	ドイツ語リテラシーII		「ドイツ語リテラシーⅠ」に引き続き、グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるべく、英語以外の外国語の一つとして、ドイツ語による読み書きを行うための文法・語彙のさらなる習得を目指す。具体的には、助動詞構文、分離動詞・再帰動詞、過去形・完了形、複文等を学習し、ドイツ語で書かれた平易な文章を理解できるようにする。辞書の使い方を習得し、自分の力でドイツ語のテキストを読むための土台になりうる程度の知識と運用能力を身につける。	
一般教育科目	外国語科目	フランス語 コミュニケーションI		グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるため、英語以外の外国語の一つとして、フランス語文化圏、とくにフランスにおいて求められるコミュニケーション能力の初歩を学習する。短い挨拶、自己紹介、フランス語学習者としての自らの能力の表明など、ごく平易な文の発音ならびに抑揚をグループワーク等により実践し習得するとともに、発語にあたっての文化的コンテクストの理解もあわせて促進する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
一般教育科目	外国語科目	フランス語 コミュニケーションII		「フランス語コミュニケーションⅠ」に引き続き、グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるため、英語以外の外国語の一つとして、フランス語文化圏、とくにフランスにおいて求められるコミュニケーション能力の基礎を学習する。公共交通機関を利用したり、飲食店で食事を取ったり、買い物をしたり、道を尋ねたりするために必要なごく基礎的な表現をグループワーク等により実践して習得することで、発語にあたっての文化的コンテクストの理解を促進するとともに、フランス語話者としての主体性を育てる。	
一般教育科目	外国語科目	フランス語リテラシーI		グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるため、英語以外の外国語の一つとして、フランス語文化圏、とくにフランスにおいて求められる言語リテラシーの初歩を学習し、ごく平易な作文ができ、意味を理解し、さらにその発語ができるようになる。具体的には、アルファベット記号の発音、母音と子音、綴り字と発音の関係、リズム、アクセント、イントネーションの基礎知識を学んだのち、基本文型、主語人称代名詞、基幹動詞の現在形の活用、3種類の冠詞の用法などの十分な理解を目指す。	
一般教育科目	外国語科目	フランス語リテラシーII		「フランス語リテラシーⅠ」に引き続き、グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるため、英語以外の外国語の一つとして、フランス語文化圏、とくにフランスにおいて求められる言語リテラシーの基礎を学習し、平易な作文ができ、意味を理解し、さらにその発語ができるようになる。すでに学んだ発音上の諸規則を、理論上の理解から実践レベルの理解へとなじませることを常に念頭に置きながら、形容詞、代名詞、強勢形の用法を理解する。動詞の時制については、現在形に加えて、過去時制、近接未来形を習得する。	
一般教育科目	外国語科目	中国語コミュニケーションI		グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるべく、英語以外の外国語の一つとして、中国語によるコミュニケーションを行うための基礎力を養う。具体的には、発音記号の読解と発音の習得から始まり、人称代名詞・指示代名詞、形容詞、動詞、助動詞、疑問詞の基本的な用法を学ぶとともに、日常的な語彙を身につけ、主として簡単な主述構文を用いた簡単な自己表現を行う能力を身につける。	
一般教育科目	外国語科目	中国語コミュニケーションII		「中国語コミュニケーションⅠ」に引き続き、グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるべく、英語以外の外国語の一つとして、中国語によるコミュニケーションを行うための語彙・表現のさらなる習得を目指す。具体的には、日常的な語彙のさらなる習得に加えて、介詞、連詞などを用いたやや複雑な表現を行うことを可能にし、自分の日常を描写したり、感情や思考を表現したりする能力を身につける。	
一般教育科目	外国語科目	中国語リテラシーI		グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるべく、英語以外の外国語の一つとして、中国語による読み書きを行うための文法・語彙の基礎を学ぶ。具体的には、現在中国大陸で使用されている簡体字の性質の理解と発音記号の読解から始まり、簡単な主述構文を中心として、人称代名詞・指示代名詞、形容詞、動詞、助動詞、疑問詞の語彙・用法などに関する文法的知識と運用能力を身につける。	
一般教育科目	外国語科目	中国語リテラシーII		「中国語リテラシーⅠ」に引き続き、グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるべく、英語以外の外国語の一つとして、中国語による読み書きを行うための文法・語彙のさらなる習得を目指す。具体的には、すでに学習した文法事項を応用しながら、介詞、連詞などを用いたやや複雑な表現や、比較構文、存現文、その他複文なども含めたやや高度な頻出構文を学習し、中国語の語順に対する理解を深める。	
一般教育科目	外国語科目	朝鮮語コミュニケーションI		グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるべく、英語以外の外国語の一つとして、朝鮮語によるコミュニケーションを行うための基礎力を養う。具体的には、ハングル文字の読解方法と歴史・文化的背景の理解、発音の習得から始まり、肯定形、疑問形、命令形の言い方、指定詞、存在詞、用言などの用法を学ぶとともに、挨拶や日常的な語彙を身につけ、簡単な自己表現を行う能力を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
一般教育科目	外国語科目	朝鮮語コミュニケーションII		「朝鮮語コミュニケーションⅠ」に引き続き、グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるべく、英語以外の外国語の一つとして、朝鮮語によるコミュニケーションを行うための語彙・表現のさらなる習得を目指す。具体的には、過去形、否定形、未来形などの言い方や、数詞、形容詞を用いた文、尊敬語などのやや複雑な表現を行うことを可能にし、自分の日常を描写したり、感情や思考を表現したりする能力を身につける。	
一般教育科目	外国語科目	朝鮮語リテラシーI		グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるべく、英語以外の外国語の一つとして、朝鮮語による読み書きを行うための文法・語彙の基礎を学ぶ。具体的には、現在韓国で使用されているハングル文字の正しい読み方および書き方を習得したうえで、簡単な主述構文を中心として、人称代名詞・指示代名詞、形容詞、動詞、助動詞、疑問詞の語彙・用法などに関する文法的知識と運用能力を身につける。	
一般教育科目	外国語科目	朝鮮語リテラシーII		「朝鮮語リテラシーⅠ」に引き続き、グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につけるべく、英語以外の外国語の一つとして、朝鮮語による読み書きを行うための文法・語彙のさらなる習得を目指す。具体的には、ハングル文字をさらに流暢に読むこと、用言の否定形、不規則用言などを用いた文章を作成すること、願望、尊敬、意思などの表現方法など、やや高度な頻出構文を学習し、日本語と朝鮮語の比較なども通じて、朝鮮語に対する理解を深める。	
一般教育科目	外国語科目	スキルアップドイツ語		1年次のコミュニケーションおよびリテラシーで学習したドイツ語の基礎をもとにして、さらなる語彙力の強化、文法知識と運用能力の向上を図り、4技能（listening、speaking、reading、writing）の総合的な発展を目指すとともに、ドイツの社会や生活、文化についての理解をさらに深める。また、選択する学生が長期間継続して能力を高められるように、2年次から4年次にかけての選択科目として開設する。	
一般教育科目	外国語科目	スキルアップフランス語		1年次のコミュニケーションおよびリテラシーで学習したフランス語の基礎をもとにして、さらなる語彙力の強化、文法知識と運用能力の向上を図り、4技能（listening、speaking、reading、writing）の総合的な発展を目指すとともに、フランスの社会や生活、文化についての理解をさらに深める。また、選択する学生が長期間継続して能力を高められるように、2年次から4年次にかけての選択科目として開設する。	
一般教育科目	外国語科目	スキルアップ中国語		1年次のコミュニケーションおよびリテラシーで学習した中国語の基礎をもとにして、さらなる語彙力の強化、文法知識と運用能力の向上を図り、4技能（listening、speaking、reading、writing）の総合的な発展を目指すとともに、中国の社会や生活、文化についての理解をさらに深める。また、選択する学生が長期間継続して能力を高められるように、2年次から4年次にかけての選択科目として開設する。	
一般教育科目	外国語科目	スキルアップ朝鮮語		1年次のコミュニケーションおよびリテラシーで学習した朝鮮語の基礎をもとにして、さらなる語彙力の強化、文法知識と運用能力の向上を図り、4技能（listening、speaking、reading、writing）の総合的な発展を目指すとともに、韓国の社会や生活、文化についての理解をさらに深める。また、選択する学生が長期間継続して能力を高められるように、2年次から4年次にかけての選択科目として開設する。	
一般教育科目	外国語科目	実践フランス語I		1年次のコミュニケーションおよびリテラシーで学習したフランス語の基礎をもとにして、さらなる語彙力の強化、文法知識と運用能力の向上を図り、4技能（listening、speaking、reading、writing）の総合的な発展を目指すとともに、フランスとフランス語文化圏の社会や生活、文化についての理解をさらに深める。過年度の成績をもとに受講者の選抜を行い、少人数による徹底した実践的訓練を行うことにより、「スキルアップフランス語」よりも高度な運用能力の修得を目指す。	
一般教育科目	外国語科目	実践フランス語II		「実践フランス語Ⅰ」で修得した語彙力や文法知識、4技能（listening、speaking、reading、writing）の運用能力を土台として、自由かつ実践的にこれらを発展させるとともに、フランスとフランス語文化圏の社会や生活、文化についての理解を背景として、フランス語による自己表現を行うことを目指す。「実践フランス語Ⅰ」の成績をもとに受講者の選抜を行い、少人数による徹底した実践的訓練を行うことにより、大学副専攻レベルの高度な運用能力の修得を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
一般教育科目	外国語科目	実践中国語I		1年次のコミュニケーションおよびリテラシーで学習した中国語の基礎をもとにして、さらなる語彙力の強化、文法知識と運用能力の向上を図り、4技能（listening、speaking、reading、writing）の総合的な発展を目指すとともに、中国の社会や生活、文化についての理解をさらに深める。過年度の成績をもとに受講者の選抜を行い、少人数による徹底した実践的訓練を行うことにより、「スキルアップ中国語」よりも高度な運用能力の修得を目指す。	
一般教育科目	外国語科目	実践中国語II		「実践中国語Ⅰ」で修得した語彙力や文法知識、4技能（listening、speaking、reading、writing）の運用能力を土台として、自由かつ実践的にこれらを発展させるとともに、中国の社会や生活、文化についての理解を背景として、中国語による自己表現を行うことを目指す。「実践中国語Ⅰ」の成績をもとに受講者の選抜を行い、少人数による徹底した実践的訓練を行うことにより、大学副専攻レベルの高度な運用能力の修得を目指す。	
一般教育科目	体育科目	体育実技		「体育実技」は、健康な生活を送るために重要な運動の実施方法を実践的に学ぶ。特定のスポーツ種目のスキルやパフォーマンスの向上を目的とはしない。文部科学省が定めている18歳以上の体力測定を実施し、その評価を行い、自身の体力水準や課題を把握する。また、健康に関連する体力といわれている全身持久力、筋力および身体組成等を改善するためのトレーニング方法を学び、グループごとに実践する。これらを通して、健康に関連する体力要素について、その重要性を生理的な働きから理解する。また、 全身持久力を高めるトレーニングの原則を理解し、自発的にトレーニングを生活の中に組み込み実践できる能力を養う。	
一般教育科目	体育科目	体育講義		バイオメカニクス、体力測定評価および運動生理学の分野を中心としたスポーツ科学を通して、自身の身体や体力といった身体的特徴を理解する。また、ICT（スマートフォンやウェアラブル端末）を活用して、得られたデータについてディスカッションを行うとともに、身体活動や身体動作を客観的に評価する能力を養う。これらを通して、自己の健康・体力に対する認識を深め、健康・体力づくりのための運動処方を理解し、生涯にわたって自主的に健康・体力づくりを実践する能力や知識を高める。また、体育・スポーツが身心に及ぼす影響を正しく学び、生涯を通して健康な生活を送る上での教養を深める。	
一般教育科目	体育科目	シーズンスポーツ		野外キャンプやスキー・スノーボードの技術習得と安全に実施する態度を習得するとともに、これらの活動にともない発生する障害や事故との関連を把握し、生涯スポーツとして継続して実践できる能力を習得する。増大していく余暇時間を活用し、スポーツ・レクリエーション活動を活発に展開していくことは現代社会の重要な課題の一つである。シーズンスポーツは生涯学習の一環としてその責任を担っている。それらのスポーツを生活のなかに自覚的に位置づけていく態度や将来継続して運動実践できる能力を育成するとともに、その成果が生涯スポーツへと発展することを期待している。	
一般教育科目	体育科目	スポーツ		ソフトテニス、卓球、バドミントンなどのラケット競技および自転車エルゴメーターやバランスボールなどを使った種々のエクササイズを通じて、心身が良好な状態で日常生活を送る能力を養う。同時に、トータルフィットネスの概念に基づき、社会性を育成する。具体的にはスポーツを通じて、フィジカルフィットネスの向上、行動力・実践能力の育成、他者とのコミュニケーション能力の育成と行動変容が可能となるセルフマネージメント能力の育成を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	英語技能科目 English Skills	Speaking & Listening I	○	学生の英語のスピーキングおよびリスニング能力を向上させることを目的としている。リスニングの練習は主に授業時間外で行われ、受講者は英語の音声を聞いた後、様々なタスクを通じて理解度を評価する。授業時間内では担当教員のフィードバックと指導が行われる。スピーキング活動は授業時間中に行われ、学生は授業の大部分に英語で積極的に参加する。受講者はペアや小グループでお互いに協力し、コミュニケーション練習のための心理的安全性が確保された環境を作る。担当教員は必要なサポートを提供して、このプロセスを促進する。各授業後、学生は自分のパフォーマンスを振り返り、授業内のスピーキング活動に関連したリスニング宿題を完了する。すべての教材は受講者のレベルと興味に合わせて選ばれる。	
専門教育科目	英語技能科目 English Skills	Speaking & Listening II	○	Speaking & Listening I に続いて、この授業も受講者の英語のスピーキングとリスニング能力の向上に焦点を当てている。リスニングの練習は主に課題として出され、学生は英語の音声を聞き、様々なタスクを通じて理解度を確認する。授業時間内では担当教員の指導とフィードバックが行われる。授業時間の大部分はペアや小グループで英語を積極的に使うスピーキング活動に充てられる。すべての学生が教師と協力して、コミュニケーションの練習に適した心理的安全性が確保された環境を作り出す。担当教員は適切な指導を提供して、受講者のコミュニケーションをサポートする。各授業後、受講者は自分のパフォーマンスを振り返り、授業内のスピーキング活動に関連するリスニング課題を完了する。すべての教材は受講者の能力レベルと興味に合ったものが選ばれる。	
専門教育科目	英語技能科目 English Skills	Speaking & Listening III		この授業はSpeaking & Listening I～IIに続くものである。英語のスピーキングとリスニングの両方を向上させることを目的としている。リスニングは主に授業時間外で行われ、授業時間中に担当教員からのインプットやフィードバックがある。クラスのレベルに応じて、リスニングは実社会からとられた素材やリスニング能力向上に適した教材から選ばれる。スピーキングは授業内で行われ、受講者は授業中ほとんどの時間、英語で積極的に話す。授業中は、受講者同士や担当教員と英語で交流し、小グループでのスピーチやプレゼンテーション等を行うことが求められる。担当教員は適切なサポートを行い、受講者の英語でのコミュニケーションを促進する。授業後、受講者はリスニング課題を宿題として行う。教材はすべて、受講者のレベルや興味に合わせて慎重に選ばれる。	
専門教育科目	英語技能科目 English Skills	Speaking & Listening IV		この授業はSpeaking & ListeningI～IIIに続くものである。英語のスピーキングとリスニングの両方を向上させることを目的としたブレンド型学習授業である。リスニングは主に授業時間外で行われ、授業時間内では担当教員からのフィードバックがある。クラスのレベルに応じて、リスニング内容は実社会からとられた素材やリスニング能力向上に適した教材が使用される。スピーキングは授業内で行われ、受講者は授業中ほとんどの時間を英語で話すことに費やす。受講者はお互いおよび担当教員と英語でやり取りすることが求められ、前の授業よりも難易度の高いスピーチやプレゼンテーションを行う。担当教員は適切なサポートを提供して、受講者の英語でのコミュニケーションを促進する。授業後、受講者は授業での成果を振り返り、リスニングの宿題を行う。教材はすべて、受講者のレベルや興味に合わせて慎重に選ばれる。	
専門教育科目	英語技能科目 English Skills	Intensive Reading I	○	英語で発信されたメッセージを文法的理解に基づいて読み取ることができるようになるための授業科目である。文法や語彙を修得し、それを実践的に活かしていくために英文の精読を行い、英語の4技能における「読む」に焦点を置いた基礎力をさらに養うことを目的とする。様々なテキストを通してセンテンスやパラグラフの構造を理解し、論理的に英語を読み解く力を身につける。授業では学生－学生、学生－教員の間で意見交換を行うことでインプットと同時にアウトプットもする。	
専門教育科目	英語技能科目 English Skills	Intensive Reading II	○	Intensive Reading Iで培った英語の基礎力を応用して様々なトピックを扱ったテキストを精読する。授業内では英文の和訳やテキストの内容に関する小設問を通して正しく英文が理解できているかを確認する。センテンスやパラグラフのレベルの文章理解と同時に、スキミングやスキャニングなどテキスト全体の内容理解にも重点を置くことで内容把握能力の向上を図る。こうしてより正確に書き手のメッセージを読み取る力を養うと同時に、英語そのものの構造やエッセイのフォーマットを理解し、総合的な英語能力の向上の基礎を構築することを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	英語技能科目 English Skills	Extensive Reading I		この科目は、eラーニング・プログラム（メディア授業）として行う。英語を多読し、理解力を高めることに重点を置いている。受講者は理解しやすい本から90,000語以上の英文を読み、オンラインテストで理解度をチェックする。毎週6,000語の多読を行い、定期的な評価を通じて進捗を確認する。プログラムは、多読の習慣を身につけることを目的としており、毎週の目標達成度に基づき継続的な評価を行う。講師は毎週のクラスでのパフォーマンスと個別フィードバックを行い、受講者の学習をサポートする。また、読解力の向上だけでなく、語彙力や文法の強化にも寄与することを目指す。	
専門教育科目	英語技能科目 English Skills	Extensive Reading II		この科目は、eラーニング・プログラム（メディア授業）として行う。英語を多読し、理解力を高めることに重点を置いている。受講者は理解しやすい本から120,000語以上の英文を読み、オンラインテストで理解度をチェックする。毎週8,000語の多読を行い、定期的な評価を通じて進捗を確認する。プログラムは、多読の習慣を身につけることを目的としており、毎週の目標達成度に基づき継続的な評価を行う。講師は毎週のクラスでのパフォーマンスと個別フィードバックを行い、受講者の学習をサポートする。また、読解力の向上だけでなく、語彙力や文法の強化にも寄与することを目指す。	
専門教育科目	英語技能科目 English Skills	Writing	○	この授業は2部構成である。第1部では、様々なスタイルのパラグラフを紹介し、最初はパラグラフ単位での英作文練習を行う。完成した作品はポートフォリオにまとめる。ライティングは正確さと流暢さを重視し、特に説明文と物語文に焦点を当てる。文法や文体の弱点を見つけ、適切なトピックのアイデアを得るために最新の技術ツールを使用する。講師のフィードバックも重要で、受講者はフィードバックをもとに執筆や書き直しを行う。授業終了までに、正確な文法で150語以上のパラグラフを書くことが求められる。第2部では、定期的に書く習慣をつけるために手書きの日記をつけ、コース終了時までに少なくとも2250語の日記を書くことが求められる。	
専門教育科目	英語技能科目 English Skills	Writing & Vocabulary	○	この授業科目は2部構成である。第1部では、様々なスタイルのパラグラフの紹介を通して、パラグラフレベルで理解できる英語を書き続け、完成した作品をポートフォリオにまとめる。ライティングは正確さと流暢さに重点を置き、主に説明文と物語文を扱う。文法や文体の弱点を見つけ、適切なトピックのアイデアを得るために最新の技術ツールを導入する。受講者は担当教員からのフィードバックを基に執筆や修正を行う。コース終了までに、正確な文法で150語以上のパラグラフを書くことが求められる。第2部では、定期的に書く習慣を継続するために手書きの日記をつけ、コース終了時までに少なくとも2250語の日記を書くことが求められる。また、このコースでは、長期的な記憶を確実にするため、インターバル反復を利用したソフトを使った集中的な語彙学習も行う。語彙学習では最低350問の正解が求められる。	
専門教育科目	英語技能科目 English Skills	Writing - Short Essay		この授業科目は2部構成である。第1部では、より複雑なパラグラフやエッセイを論証的、説明的に書くことを目指す。ライティングの構成と内容の充実を図るために、AI等のテクノロジーを活用する。また、自分の考えを補強するために外部資料を読み、分析力を高める。このコースの目標は、受講者が自分の主張を明確に示す構成のしっかりした文章を作成できるようになることである。コース終了時には、技術的支援の有無に関わらず、100～200語のパラグラフを注意深くつなげて書くことが求められる。第2部では、文章を書く習慣を身につけるために手書きの日記をつけ、コース終了までに少なくとも2250語の日記を書くことが求められる。また、このコースでは、長期的な記憶を確実にするため、インターバル反復を利用したソフトを使った集中的な語彙学習も行う。語彙学習では最低350問の正解が求められる。	
専門教育科目	英語技能科目 English Skills	Writing - Long Essay		この授業科目は2部構成である。第1部では、リサーチの要素や長めのライティング課題を通じて、エッセイライティングのスキルを向上させる。担当教員は、リサーチの収集と要約を支援し、受講者の作品にフィードバックを提供する。受講者は自分の考えを裏付けるために外部資料を読み、分析することで分析力を強化する。このコースの目標は、詳細なリサーチに基づいたエッセイを書く準備を整えることである。学期末には、少なくとも800～1000語の一貫したエッセイを作成することが求められる。第2部では、定期的に書く習慣をつけるために手書きの日記をつけ、コース終了時までに2250語以上の日記を書くことが求められる。また、このコースでは、長期的な記憶を確実にするため、インターバル反復を利用したソフトを使った集中的な語彙学習も行う。語彙学習では最低350問の正解が求められる。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	Skills English 英語技能科目	Academic Writing		この授業科目の目標は、1800語以上のアカデミック・エッセイを英語で作成することである。英語で直接エッセイを書く過程では、リサーチやライティングを補助する最新のツールを活用しつつ、自分の言葉で考え、表現することを学ぶ。担当教員から個別のフィードバックを受け取りながら、英語での論文・レポートの形式や、そのような論文・レポートを書くために必要なリサーチ方法についても学ぶ。	
専門教育科目	Skills English 英語技能科目	Presentation in English		中・高の英語教諭を目指す学生を対象としたこの授業科目では、特に英語の文法と語彙を効果的にプレゼンテーションする方法に焦点を当てる。担当教員が英語教育に効果的なプレゼンテーションの原則を示した後、受講者は「英語教師」になったつもりで、デジタルと非デジタルのプレゼンテーションを実践する。理論の理解と実践を通して、パワーポイント、ビデオ、黒板、紙など様々な媒体を使った語彙や文法のプレゼンテーションのスキルを身に着ける。授業中のプレゼンテーション課題は「アクティブ・ラーニング」の原則に基づいて評価される。担当教員からのフィードバックは、授業時間中および学習管理システムを通じて行われる。	
専門教育科目	Skills English 英語技能科目	Integrated English I		英語のインプットとアウトプットを統合した英語コミュニケーション科目である。これまでに学んだ英語を駆使して、課題に取り組む。タスク・ベースのアプローチでは、明確な成果を達成するために、受講者同士や担当教員との積極的な関わりや対話が求められる。受講者は、読解力とリスニング力を駆使して、論争の的になりそうな記事、ポッドキャスト、ビデオの意味を理解・解釈し、スピーキング力とライティング力を駆使して、要約、考察、議論、発表、意見表明を行う。課題は個人、ペア、または小グループで行う。	
専門教育科目	Skills English 英語技能科目	Integrated English II		英語のインプットとアウトプットを統合した英語コミュニケーションコースである。担当教員が厳選した文章の読解や、履修者によるプレゼンテーションと討議を行う。プレゼンテーションの内容は、履修者が担当教員の助言を受けながら、各自の関心に応じて設定する。タスク・ベースのアプローチでは、受講者が能動的に、口頭で内容を明確にしたり要約したり、適切な場合には意見を述べたりするために、互いに関わり、対話することが求められる。受講者はライティングスキルを使ってリアルタイムでメモを取り、各回の内容を短くまとめる。	
専門教育科目	Skills English 英語技能科目	English Certification I		TOEIC/TOEFLスコアや英語関係の検定試験合格等を前提として、学習のプロセスを振り返る「わたしの英語学習法」（仮題）レポート（800字程度）を提出し、単位認定を行う。英語運用能力の向上とともに、目標達成に必要なプロセスを明らかにして準備する計画性と、物事に進んで取り組む主体性を身につけることを狙いとする。また、レポート執筆を通して自分の課題や強みをよりよく理解できるようになる。English Certification Iは英語で一般的な社会生活に必要なコミュニケーションを大きな問題なく行うことができる水準に達していることを目安とする(TOEICの場合600点以上720点未満）。	
専門教育科目	Skills English 英語技能科目	English Certification II		TOEIC/TOEFLスコアや英語関係の検定試験合格等を前提として、学習のプロセスを振り返る「わたしの英語学習法」（仮題）レポート（800字程度）を提出し、単位認定を行う。英語運用能力の向上とともに、目標達成に必要なプロセスを明らかにして準備する計画性と、物事に進んで取り組む主体性を身につけることを狙いとする。また、レポート執筆を通して自分の課題や強みをよりよく理解できるようになる。English Certification IIは、特定の状況下において、英語でやや複雑なコミュニケーションを大きな問題なく行うことができる水準に達していることを目安とする（TOEICの場合720点以上830点未満）。	
専門教育科目	Skills English 英語技能科目	English Certification III		TOEIC/TOEFLスコアや英語関係の検定試験合格等を前提として、学習のプロセスを振り返る「わたしの英語学習法」（仮題）レポート（800字程度）を提出し、単位認定を行う。英語運用能力の向上とともに、目標達成に必要なプロセスを明らかにして準備する計画性と、物事に進んで取り組む主体性を身につけることを狙いとする。また、レポート執筆を通して自分の課題や強みをよりよく理解できるようになる。English Certification IIIは、様々な状況に応じて、英語で、ある程度複雑なコミュニケーションを大きな問題なく行うことができる水準に達していることを目安とする（TOEICの場合830点以上）。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	ことばのしくみ	○	言語運用の基盤となる言語の仕組みを確認し理解することを目標とする。授業で対象とする言語は日本語と英語を中心とする。既習の文法事項の理解度を確認しながら、それぞれの文法事項が単なる暗記項目ではなく、日常のコミュニケーションの中で正確な言語運用を可能とする仕組みとして機能していることについて理解を深められるように指導する。そのために、授業においては、学生の興味や関心を喚起するような具体的な言語現象を多く取り上げ、学生が主体的に考えられるような課題を設定し、受講生の理解度を確認しながら指導する。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	コミュニケーションと文法	○	日本語や英語の文法事項が実際のコミュニケーションの中でどのように機能するかについて、実践例を用いながら具体的に学習する。既習の文法事項を正しく用いることに注力するだけでなく、コミュニケーションにおける言語表現に間違いが生じた場合には、その間違いを自ら発見し、どこに間違いの原因があるかについて各文法事項に照らし確認できる力を養成する。これらの学習を通して、大学生および社会人に要求される実践的な言語運用能力を強化するとともに、「専門セミナー（言語文化）」や「卒業研究セミナー」および「卒業論文」の執筆に関する専門知識の理解につながるように発展的に指導する。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	ことばの世界（基礎）		我々が日常何気なく使用している「ことば」について改めて考え、「人間の言語知識とはどのようなものであるか」について学ぶことを目標とする。授業では、人間の心の解明に挑んでいる言語研究の成果を紹介しながら、言語を研究することの知的興奮を味いたい。また、日本語を手がかりに、日本語の特徴や、英語との相違、共通点についても考える。これらの学習内容に関して、学生が主体的に取り組めるような授業運営を行う。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	ことばの世界（発展）		この授業では、「人間の言語知識とはどのようなものか」というテーマを詳しく扱うことで、英語学や言語学の基礎的な知識を得ると同時に、「ことば」を学ぶことの意義について理解することを目標とする。具体的には、音声学・音韻論、統語論、意味論などに関する基礎的な知識について学ぶとともに、心理言語学、社会言語学、認知言語学や言語獲得に関わる応用的な知識についても学習し、「人間の言語知識とはどのようなものであるか」について、学生が自ら考え理解を深められるように、適切な課題を設定したり、学生が自ら学習成果を確認できるように、グループ発表等の機会を設ける。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	英語発音法（基礎）		英語で用いられる音声記号を学生が読み書きできるようになることを目標とする。そうすることで、学生は(1)音声記号を理解できるようになり、(2)英語音声と日本語音声の相違を理解できるようになる。また、(3)音声の仕組みや構造を理解できるようになる。さらに、この授業では、アメリカ英語の母音、子音を言語学的に分析するとともに、実践的な訓練を通して、基本的な発音習得を目指ざす。日本語にない音を中心に発音訓練や、聞き取りの練習を行う。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	英語発音法（発展）		この授業では、英語音声に関して、実践的な発音訓練の機会を多く設ける。また、より理論的な側面も扱いながら、個人の成果発表の他に、グループプロジェクトも取り入れて、アメリカ英語の音の習得を目指したい。このような学習を通して、学生は、(1)英語音声学に関する基礎力を身につけ、実践面で応用ができるようになり、(2)英語音声と日本語音声の相違を理解できるようになり、(3)「ことば」に用いられる音声の仕組みや構造を理解できるようになる。このような学習の結果、(4)英語の発音が、日本式英語から改善されることを目標とする。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	ことばと心理		この授業では、「ことば」を人間の心理的側面との関係で捉え、日常的に身近な言語現象を心理言語学の観点から自分なりに分析してみようという姿勢を身につけることを目標とする。そのために、授業においては、言語の獲得、理解、産出、思考との関係などについて、学生の興味や関心を喚起するような具体的な研究事例を取り上げ検討することを通じて、学生の主体的な学習姿勢を養成し、心理言語学的なものの見方（基礎概念、目の付け所、研究手法など）に親しみ、メタ認知能力の涵養を図る。また、文献の要旨を把握する基本的読解力を養うように授業を運営する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	心理言語学		この授業では、①心理言語学の関心事と主要理論の要点、またそれに応じた方法論の概要を理解する。②データを扱う実証的な研究論文から、図や表が何を示しているか要点を読み取ることができるようになる。③自身が調査した文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。この授業では、心理言語学でとられる主要な方法論の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらう。一つの研究目的に対してなぜこのような方法論がとられているのかを考えながら、心理言語学の方法論の趣旨を理解することを目指す。また、文献の要旨を把握する基本的読解力を身につけることを意図している。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	手話コミュニケーション（基礎）		日本手話の普及とろう者の権利に対する理解が広まっている状況に鑑み、本授業では、日本手話による基本的なコミュニケーション力の養成を目標とする。手指の動き、位置、表情などの基本的な手話要素や、数字、色、家族、趣味、日常生活の単語やフレーズを習得しながら、日本手話の文法ルールについて指導する。ペアワークなどによりシンプルな日常会話の練習を行い、身近なトピックについて手話で意思疎通する能力を養う。また、日本手話の起源、文化的背景、ろう文化についても学ぶ。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	手話コミュニケーション（発展）		この授業では、少し複雑な手話表現を学ぶ。感情、意見の伝え方や、説明、議論のやり方など、職場や学校でのコミュニケーションに必要な表現の習得を目指す。グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、手話で意見を述べるスキルを向上させる。さらに、配慮の必要な人々とのコミュニケーションにおいて、相互理解を促進する方法についても考えたい。このような授業内容を通して、学生は日本手話を実践的に身につけ、コミュニケーション能力を向上させることができる。また、ろう者の文化的背景や価値観を尊重し、多様性を受け入れる姿勢を養うことができる。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	英語の歴史		1500年以上にわたって変容を繰り返しながら今日に至るまで形成されてきた英語の歴史について包括的な知識を身につけ、その知識を生かして現代英語のさまざまな現象を説明できることを目標とする。授業では、英語の過去に起こった変化、あるいは現在起こりつつある変化、そしてこれから起こるであろう変化をたどることにより、英語を学ぶ者にとって最低限必要な英語の歴史的変容を理解できるよう指導する。これらの学習内容を達成するために、学生たちが主体的に取り組めるような授業運営を行う。また、この授業で身につけた知識をもとに、英語学習に新たな視点を導入できるように指導する。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	ことばと情報		言語が伝える情報が音韻情報、意味情報、統語情報で構成されていることを知り、それぞれの情報の機能と特性について基礎的な知識を理解するとともに、実際のコミュニケーションの中でそれぞれの情報同士がどのような関係にあるのかについても理解する。また、これらの情報が伝える内容が実際のコミュニケーションが行われる状況や話し手および聞き手の関係によって変化する可能性についても学習する。これらの学習を通して音韻論、意味論、統語論、語用論等の基礎な考え方と知識を身に着けることができる。本授業では、言語の情報を整理、分析するために、言語コーパスやAIを活用する方法についても指導する。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	ことばと社会		社会言語学の領域で伝統的に扱われてきた諸トピックを取り上げ、人間社会と言語との関係について考察する。この授業を通じて得た知識と研究方法が日常のコミュニケーションの在り方を理解することにどのように利用することができるかについて、多くの具体例の学習をもとに整理・分析できることを目指す。これらの学習内容を達成するために、学生たちが主体的に取り組めるような授業運営を行う。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	社会言語学		社会言語学の領域で伝統的に扱われてきた諸トピックをさらに深く検討する。人間社会の諸属性と言語変異の関係について考察する。講義を通じて得た知識と研究方法を利用することで，身の回りの言語現象（日本語や英語を中心としたデータ）と社会的属性との関わりを理解し，言語学的諸問題を整理・分析できることを目指す。このような学習を通して、①年齢や性別といった諸特性と言語変異の関係が理解できるようになる。②言語使用域や丁寧表現について理解できるようになる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	言語学とコミュニケーション（音声学・音韻論・形態論）	○	他の言語文化系の科目で学習してきた「ことば」に関する様々な知識をより深く理解し、それらの知識をより円滑に活用できるよう発展的に指導する。本授業では、言語学に関する研究分野の中で、音声学・音韻論、形態論における主な研究成果の中から、受講生の興味や関心等を考慮した上で、いくつかの研究テーマと成果について紹介・解説しながら、それらの研究内容に関わる専門知識を理解し習得させることを目的とする。これらの学習内容を達成するために、学生が主体的に取り組めるような授業運営を行う。また、この授業で身につけた専門知識を「専門セミナー（言語文化）」や「卒業研究セミナー」に活用できるように発展的に指導する。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	言語学とコミュニケーション（統語論・意味論・語用論）	○	他の言語文化系の科目の学習内容を踏まえて、「ことば」の特性をさらに深く考察し、実際のコミュニケーションの中でそれらの専門知識を活用できるよう発展的に指導する。本授業では、統語論・意味論・語用論の研究分野で主に取り上げられるテーマを題材にし、言語学で得られる知識が実際のコミュニケーションとどのように関わっているのかを学習する。受講生には、各テーマに関わる情報をインターネット、書籍、論文等から収集、整理させ、その結果を発表することで他の学生と共有し理解を深めるよう指導する。これらの学習を通じて、大学生および社会人に要求される実践的な言語運用能力を強化することを目指す。	
専門教育科目	専門基幹科目	言語文化系科目	世界の言語		英語は世界の共通語と呼ばれるものの、現実には英語が通じにくい国や地域は世界中にある。また、英語文化をより客観的に理解するには、他の外国語を併せて学び、英語と比較することが有効である。この授業は、英語以外の言語の初歩を学ぶことで、英語学習では得られない新たな視点から英語のしくみをに興味を持てるようになることを目的とする。同時に、その視点を提供する英語以外の外国語とその文化圏に関する基礎的な知識を獲得する。また、この授業で特に「フランス語」または「中国語」を学ぶことで、一般教育部が運営する副専攻プログラム履修への動機付けを得ることも目指す。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	異文化理解	○	英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解するために、この授業ではイギリスを事例に基礎知識を身に付け、異文化理解や国際交流に役立てられるような教養を持つことを目的とする。歴史（イギリスの国の成り立ち）、社会（王室、国際関係）、文化（芸術、まち、暮らし）等のトピックと基礎資料を教員が提供し、概説する。学生は関連記事を検索、収集し、内容を報告し合い、イギリスにおける現状課題を理解する。また、イギリスの伝統文化を日本で広める演奏家（外部講師）を招いて、トークや演奏会等を開催する。こうしたことを通して、文化の多様性を体感することにより、異文化交流の意義について体験的に理解する。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	異文化交流	○	英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解するための「異文化理解」の授業を踏まえて、この授業では、海外でも教育経験のある外国人担当教員による、海外の現状をトピックとする。教育やスポーツ、日常の暮らし等を扱い、基礎資料は教員が提供し、概説する。また、海外の歴史や生活と日本のそれらとの違いを考察し、多様な文化的背景をもった人との交流を通して、文化の多様性を体感し、異文化交流の意義について体験的に理解する。学生は関連記事を検索、収集し、内容を報告し合い、異文化交流における現状と課題を理解する。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	メディア概論	○	スマホなど高性能の情報端末を得た私たちは、メディア社会の構成員として、情報の受信・発信者としての自己に自覚的であらねばならない。この授業は、学術用語としての「メディア」という概念を理解し、さらにこの概念を用いた思考の初歩に開眼することを目的とする。まず、テレビやインターネットなどを総称する狭義の「メディア」と、コミュニケーションを媒介するものとしての広義の「メディア」という二つの概念を分けて考えられるようになるために、メディア史の端緒すなわち文字の始まりとマスメディアの始まりについて学び、それらの進化と弊害とを広告などの表象やSNSなどの実例を通して理解する。そして、自らが広義の「メディア」に関わる当事者であることを実践的に学ぶために、自らの声を用いた音声メディア制作にグループで取り組み、制作のプロセスを言語化する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	メディアリテラシー	○	デジタル社会の到来とともに、メディアをつくることばが人の数だけ存在し、ことばの発信手段も受信手段も多種多様となった現代、メディアと安心・安全に関わるための知性が求められている。この講義では、自らの発信することばと、他者の発信することばを吟味するために必要なものの考え方の基礎を知り、さらに、その考え方を実践するための基礎的なスキルを身に付ける。まず、日本で日常的に用いられるソーシャルメディアにおける情報の送受信を巡る諸問題を考察したのち、編集作業を要する文字メディア（新聞、雑誌、Webジャーナル、ZINEなど）の制作におけることばの用い方、他者との共同の方法、情報の編集の方法や発信方法などを、実例と実践を通して学ぶ。この学びを通して、情報の送受信にまつわるリスク管理力（狭義のリテラシー）だけでなく、デジタル社会に氾濫することばを冷静に受け止め、批判的に理解する力（広義のリテラシー）の重要性を理解する。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	メディア文化史 Ⅰ		古代から近世までのメディア文化の流れを把握し、それぞれの特質を理解することを目的とする。メディアを情報の伝達やコミュニケーションのための媒体ととらえ、サインやシンボル、書物や絵画、建築や都市空間における図像等の視覚言語を中心に扱い、それらと人間との関係、社会との関係において、どのような文化が形成されてきたか、と言う点に着目し、概説する。古い時代の現存例は、特権階級や知識層の間で享受されたものに偏るが、文盲率の高い時代にどのようなメディアが発達し、コミュニケーションのための媒体となってきたか等についても例示対象とする。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	メディア文化史 Ⅱ		近代から現代までのメディア文化の流れを把握し、それぞれの特質を理解することを目的とする。メディアを情報の伝達やコミュニケーションのための媒体ととらえ、近代以前から確立していたメディアに加え、写真、映像等、また、マスメディアから、ネットワークメディア等を対象とする。物理的に存在するものから仮想空間のそれに至るまで扱い、それぞれがどのような技術的・文化的特徴をもつものであるのか、また、我々の生活とどのような関係をもつものなのか、という点を問いかけながら、講義を進める。特に、情報化社会におけるメディアの有りようを考察し、今日のメディア・コミュニケーションを理解する一助とする。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	コミュニケーションとしての英語小説（アメリカ）	○	英語で書かれたアメリカの小説またはそれに準じる散文テクストを原書で読み、多様な英語表現を正確に読み取ることのできる英語運用能力を涵養する。この授業科目では実際の作品を通して文学テクストにおける読者−作家、読者−作品、作品−作家、読者−作品−作家という様々なレベルで構成されるコミュニケーションを理解する。単語、文章、ストーリーという単位で作品のテクストを分析して発信されるメッセージを正確に読み取ることを目的とし、そこから自分の解釈を新たに考え、それを言語化し伝える力を修得する。授業は指定された範囲の予習を前提とし、文法理解や語彙の知識を確認しながら、内容理解を共有していく。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	コミュニケーションとしての英語小説（イギリス）	○	英語で書かれたイギリスおよびイギリスと関係の深い国・地域の小説またはそれに準じる散文テクストを原書で読み、多様な英語表現を正確に読み取ることのできる英語運用能力を涵養する。この授業科目では文学のコミュニケーションとしての側面に焦点を当て、文学的テクストにおいて読者とのコミュニケーションを成立させるためのどのような工夫がなされているかを実例から理解する。また、文化的背景や時代の異なるテクストを読む場合にどのようなコミュニケーション上の課題が生じてくるか知り、それを克服するための具体的な方略を講じることができるようになる。授業は文法理解や語彙の知識を確認しながら行う。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	アートとしての英語詩（イギリス）		英語で書かれたイギリスおよびイギリスと関係の深い国・地域の詩（音楽の歌詞等も含む場合がある）を原書で読み、多様な英語表現を正確に読み取ることのできる英語運用能力を涵養する。この授業科目では文学のアートとしての側面に焦点を当て、文学的テクストをアートとして成立させている形式や、効果的な言葉の選択について理解する。狭い意味での情報伝達に限定されない、言葉のもつ潜在的な力に対する感受性を涵養する。授業は文法理解や語彙の知識を確認しながら行う。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	アートとしての英語詩（アメリカ）		英語で書かれたアメリカおよびアメリカと関係の深い国・地域の詩（音楽の歌詞等も含む場合がある）を原書で読み、多様な英語表現を正確に読み取ることのできる英語運用能力を涵養する。この授業科目では文学のアートとしての側面に焦点を当て、文学的テクストをアートとして成立させている形式や、効果的な言葉の選択について理解する。狭い意味での情報伝達に限定されない、言葉のもつ潜在的な力に対する感受性を涵養する。授業は文法理解や語彙の知識を確認しながら行う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	イギリス文学入門	○	イギリス近・現代文学の代表的作家および作品を紹介することを通じて(1)文化を特定の地理的・歴史的条件のもとで、長い時間をかけて紡がれる集合的な営みとして認識できるようになること(2)文学と総称されるアートおよびコミュニケーションの多様性を知ること(3)文学作品を様々な角度から検討し解釈することのおもしろさに触れることの三つを目的とする。さまざまなテクストの解釈の多様性にふれるとともに、他の受講者と意見を交換することの面白さを実感できるよう工夫する。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	アメリカ文学入門	○	本科目ではアメリカ文学史における複数の代表的な作家や作品を通じてアメリカ文学を取り巻く社会・文化・歴史を学び、さらに文学テクストの中で発信されるメッセージが持つ多様な解釈の可能性を理解できるようになる。19世紀から現代に至るまで様々な時代のアメリカ文学作品を扱い、それぞれの文体の特色や時代との関わりを知り、それがテクストにどのように影響するのかを理解する。実際の授業ではアメリカ文学における基本的な知識を受動的に修得するだけでなく、テクストを分析する力を習得し自分で新たな発見ができるようになる。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	物語論／映画論		２年生までに培った小説・アート・映像といったメディアを分析し、自身の考えを発信する力をさらに発展させ、本科目では小説・映画といったメディアが扱う「物語」を理論的に分析する。さらにその物語の語りや描かれ方がメディアによってどのように異なってくるのかをナラトロジーやアダプテーションの理論から理解していく。授業では理論的な知識を学び、その実践として物語を扱うメディアを「鑑賞→分析→思考の言語化」というプロセスを経て構造的に解釈できるようになる。こうした理論的なメディア分析を通してメッセージをどのように分析するのか、どのように発信するのかということを学び、自身のコミュニケーションの在り方を見直す。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	演劇/パフォーマンス		２年生までに培った小説・アート・映像といったメディアを分析し、自身の考えを発信する力をさらに発展させ、書かれたテクストの理解だけでなく、劇場での上演や映像をはじめとする他メディアへのアダプテーションまでを含めたアート/エンターテインメントとしての演劇について理解を深め、考察できるようになる。また英語圏におけるパフォーマンス・スタディーズの知見も取り入れ、社会の様々な営みを、身体を使ったコミュニケーションとして分析する視点を身につける。 （オムニバス方式／全15回） （5 酒井 祐輔／９回） 戯曲を読むということ　上演を観るということ　演劇以外のパフォーマンス （4 間瀬 幸江／３回） せりふを喋るということ　せりふを聴くということ （7 谷津 智里／３回） 観客に届けるということ	オムニバス方式
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	SF的想像力と社会		２年生までに培った小説・アート・映像といったメディアを分析し、自身の考えを発信する力をさらに発展させ、サイエンス・フィクションやファンタジー的発想を取り入れた文学やメディア表現について学ぶ。こうした作品について、それが生み出された時代の歴史的条件とともに学ぶことで、人間の想像力がどのようにして社会的な現実に対して働きかけるのかを深いレベルで考察できるようになる。また、科学技術の発展がいちじるしい現代社会の課題やその解決策について、SF的想像力を駆使して議論することができるようになる。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	グローバリゼーション時代の文学		本科目では外国語で書かれた文学作品を主な題材とし、英語が使われている国や地域の文化と社会の成り立ちや、グローバル化した現代の世界を理解する上で重要なトピックについて深く探求する。様々な国の文化が入り混じる現代の視点を通して古典と呼ばれる作品から近現代の作品までに至る領域で描かれる文化や時代的背景を理解し、それを発展させ、今を生きる人々に必要な視野の広さを身につける。授業では作品分析を通して、現代−過去、国−国、人−人といった様々なレベルの間のコミュニケーションで起きる文化的差異や類似点を発見し、議論に発展させ、そこに生じる問題をどう解消するかを追求する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	アートとメディア		芸術の世界において、メディアはその表現を伝える媒体として機能してきた点が見られるが、やがて、そのメディア自体の自立性や表現性が前面に出され、メディア・アートへと広がりをみせていく。この授業では、造形表現を中心とした様々な芸術作品をまず鑑賞する。それらを通して、その表現の多様性を知り、理解を深める。そして、メディアに着目して、それぞれの作品においてどのような機能を果たしているのかを考察する。このことを通して、鑑賞者である自身を客観視し、作品との関係を言語化する力を伸ばしていく。それにより、作品と鑑賞者との間に生じているコミュニケーションに気づくことになるであろう。本科目は、アートとメディアの関係性を探りながら、コミュニケーションについての視野を広げ、自身のコミュニケーションを豊かにするような視点を養うことを目的とする。	
専門教育科目	専門基幹科目	メディア文化系科目	アートとエンターテインメント		アートとエンターテインメントは、両者とも表現活動であり、作品でもある。人とのコミュニケーションをもたらす側面を両者は有しているが、その関わり方が異なる。この授業では、両者の歴史を概観し、事例をとおして、それぞれの特質を見いだし、人との関わり方やコミュニケーションの違いを考察する。また、「アートとメディア」で見いだされたことと比して、エンターテインメントとメディアはどのような関係にあるのかを分析する。以上のように、アートとエンターテインメントをとおして、事象を分析、考察する力を身につけ、それぞれの特質やコミュニケーションの違いを理解し、コミュニケーションの世界についての視野を広め、自身のコミュニケーションを豊かにするような視点を養うことを目的とする。	
専門教育科目	専門発展科目	コミュニケーション演習科目	コミュニケーション基礎セミナー	○	言語学、メディア、文化といった様々な領域から見えるコミュニケーションの在り方を学ぶ。受動的に知識を蓄えるだけではなく、自分の興味のある領域への関心を深め、それを学生同士でディスカッション等で共有しながらコミュニケーションの基礎となる「話す力」、「聴く力」も同時に養い、「他者を知る力」から「自分を知る力」へと繋げていく。 （オムニバス方式／全15回） （2 吉村 典子/1回） ガイダンス （2 吉村 典子／２回） 見たものを言葉にする　感動を言葉にする （1 増冨 和浩／２回） コミュニケーションにおける言葉の多義性 （5 酒井 祐輔／２回） 「コミュニケーション力」の歴史 （6 山口 晋平／２回） 文学作品における作家と読者の相互的関係性 （4 間瀬 幸江／２回） 戯曲のせりふを読み合い聴き合う （7 谷津 智里／２回） インタビュースキルと編集スキル （3 John Wiltshier／２回） 教育とコミュニケーション Is it the teacher’s job to motivate students?	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	コミュニケーション演習科目	メディアコミュニケーション基礎	○	この講義の目的は、自らの意見を持ち、それを借り物でない自らのことばで構成するという、コミュニケーションスキルの核となる部分を体験的に理解することにある。そのためにまず、自らの意見を持つこと、それを表明すること、それを社会に聴かれることが、自らを含む万人に与えられている権利であることを、グループディスカッションの協同作業の中で段階的に理解する。また、この理解の省察のために、ラジオなどの音声メディアとWeb媒体などの文字メディアを使った簡単な情報発信の実践を行う。	
専門教育科目	専門発展科目	コミュニケーション演習科目	メディアコミュニケーション実践	○	メディアを通じて自らの意見を自らのことばで発信するスキルと、メディアを通じて届く他者のことばを受けとめ、さらに問い返すスキルを、より包括的に理解するための実践を中心とする授業である。自ら探究したい問いを設定し、探究の過程の試行錯誤を自覚的に省察し、グループでのディスカッションによって他者からの評価も受けながら、問いに対する暫定的な答えを自らのことばでつむぐことができるようになる。この成果を、ラジオなどの音声メディアや、Web媒体制作、紙媒体制作、展示企画立案などの文字を用いたメディアを介して発信する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門発展科目	コミュニケーション演習科目	専門セミナー（言語文化） A	○	授業期間の前半は、担当教員が中心となり言語学・英語学に関する基本的な知識について講義を行い、問題演習などを交えて理解度を確認しながら進める。授業期間の後半は、グループ毎に演習課題等に取り組み、その結果について発表やディスカッションを行ってもらう。これらと並行して、学年末の課題レポート作成の準備を計画的に行ってもらう。言語を単なるコミュニケーションの手段としてだけ見るのではなく、人間言語の機能と特性を意識させ、言語学的な視点を取り入れながら各自の課題レポートのテーマと議論の方法の選定を促す。	
専門教育科目	専門発展科目	コミュニケーション演習科目	専門セミナー（言語文化） B	○	この授業では、学年末レポートの作成に向けて、言語学・英語学や、それに関連する分野から選定した各自のテーマについて理解を深めるとともに、必要な資料等の検索・収集を行ってもらう。授業では、演習やディスカッションの時間を多くとり、各自が主体的に学年末レポートの作成に取り組むような形式で進める。コミュニケーションにおける言語の機能や特性について理解を深めながら、各自の課題レポートにおける議論の進め方について言語学的な視点から検討する力を養う。このような学習を通して、４年次の卒業論文作成に備えた問題解決力を高めることができるように指導する。	
専門教育科目	専門発展科目	コミュニケーション演習科目	専門セミナー（メディア文化） A	○	授業の前半は、担当教員が中心となり、教員が専門とする領域についての講義を行い、受講生の口頭発表等を通して、理解度とともに、理解したことを説明できる能力があることを確認する。本授業の後半では、専門領域の知識と理解を深めるなかで出てきた疑問や興味・関心をもとに、学年末に提出するレポート作成にむけて、課題設定する。各自設定した課題について必要な資料収集や取材等を行い、適切に取捨選択できる能力を養い、口頭発表や資料作成およびミニレポートを通して、得た情報を適切にまとめ、報告できる力を身につけ、後期のディスカッションに向けての基礎能力を養う。	
専門教育科目	専門発展科目	コミュニケーション演習科目	専門セミナー（メディア文化） B	○	「専門セミナー（メディア文化）A」に引き続き、学年末レポートの作成に向けて、各自が選定したテーマについて理解を深めるとともに、必要な資料等の検索・収集を行ってもらう。授業では、演習やディスカッションの時間を多くとり、意見の交流をとおして、考えを積み上げていく力を身に付け、各自が主体的に学年末レポートの作成に取り組むような形式で進める。設定した課題について、目的に対して適切な資料収集や取材ができるようになることと、それを適切に分析でき、課題解決に応用できるようになる力を養う。このような学習を通して、４年次の卒業論文作成に備えた問題解決力を高めることができるように指導する。	
専門教育科目	専門発展科目	コミュニケーション実践科目	グローバルコミュニケーション実習		（分担／2 吉村典子(2026年度)、5 酒井祐輔(2027年度)、4 間瀬幸江(2028年度)、6 山口晋平(2029年度)） 言語運用能力の向上、異文化理解を目的に、海外での語学研修等を実施する。但し、学生自身が研修先と目的を定め、計画、実施、成果報告を行う。これによりセルフマネージメント能力も養う。本学の海外協定校や本学科の海外パートナー校等で45時間以上の研修（もしくは同等の研修）を単位取得基準とするが、学生自身が計画をたて、学科の了承を経て実施とする。帰国後、研修内容と時間を証明する書類とともに、現地での学びをレポートもしくは冊子等にして提出する。帰国後の報告（面談）および提出物を教員が点検し、単位を認定する。	分担
専門教育科目	専門発展科目	コミュニケーション実践科目	文化コミュニケーション実習		（分担／4 間瀬幸江(2027年度)、2 吉村典子(2029年度)） 現地研修を通して、地域の社会・文化・歴史を体験的に学び、文化の理解を深める。実習では、実際のヒト、モノ、コト、空間に触れることを第一の目的とし、視野や世界を広げる。また現地取材等を行い、地域と主体的に関わり、仮想空間では得られない情報の収集に努める。現地で得た学び、収集した資料は、毎日日記形式（公開を前提とする）で整理し、記録することで理解を深めるとともに、冊子等のメディアを使って、アウトプットする力を身に付ける。以上のようにして、情報の収集力や取材力、発信力を高めることを第二の目的とする。現地研修終了後、冊子等の完成版を提出し、評価を引率教員より受ける。	隔年・分担

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門発展科目	コミュニケーション実践科目	海外研修 （事前学習）		（分担／3 John Wiltshier・5 酒井祐輔(2026年度)、6 山口晋平・9 Timothy John Phelan (2027年度)、3 John Wilthsier・2 吉村典子(2028年度)、6 山口晋平・4 間瀬幸江(2029年度)） 海外での語学研修（教員2名以上が引率する約3週間のグループ研修）のための準備および事前学習を行う。出国までの手続き、空港、機内、ホームステイ、語学学校、滞在地、帰国の手続き等、一連の流れを把握する。研修先の国の歴史、文化などについて教員の講義を通して、知識を身に付け、受講者も、関連事項についての情報を、グループで収集し、内容を報告し合い、知見を広めるとともに、これらの協働作業により、グループ研修としての結束を高める。また、研修をとおしてのそれぞれの目標・目的を設定し、自由時間の見学先等の研修期間中の計画書を作成させることにより、研修先での主体的な活動を促す。見学地については、その歴史や文化等をレポート形式でまとめ提出し、口頭発表会を通して、理解したことを説明できる力を養い、同時に、参加者との情報共有の場とする。	分担
専門教育科目	専門発展科目	コミュニケーション実践科目	海外研修		（分担／3 John Wiltshier・5 酒井祐輔(2026年度)、6 山口晋平・9 Timothy John Phelan (2027年度)、3 John Wilthsier・2 吉村典子(2028年度)、6 山口晋平・4 間瀬幸江(2029年度)） 海外でホームステイをしながら語学学校で英語研修を受ける（教員2名以上が引率する約3週間の団体研修）。英語運用能力向上とともに、語学学校スタッフや異なる国出身のクラスメイトおよびホストファミリーとの関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を身につけ、多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解する。現地での見学やプロジェクトを通して、地域の社会・文化・歴史を体験的に学び、異文化理解を深める。現地での学び、収集した資料は、毎日日記形式（公開を前提とする）で整理し、英文で記録しながら理解を深めるとともに、冊子等のメディアを使って、英語でアウトプットする力を身に付ける。完成版を帰国後提出し、研修を通しての評価を引率教員より受ける。	分担
専門教育科目	専門発展科目	キャリア支援科目	キャリアデザイン （基礎）		この授業では、受講生が各自のキャリアをデザインしていくうえでポイントとなる要素について解説し、１年次から女性としての生き方について関心を持ち、将来の方向性について考える機会を受講生に提供する。受講生が自分自身の興味、関心や能力などを理解し、それを社会の状況や方向性の中でどう活かしていくかを考えることの重要性について指導する。このような授業を通して、自分の人生をどのように組み立てていくかということを自分の意志で考え、実現に向けて行動していく方法について考えてもらう。	
専門教育科目	専門発展科目	キャリア支援科目	キャリアデザイン （発展）		キャリアデザインとは、職業的な経歴やキャリアパスを計画し構築するプロセスであることを受講生に解説し、自分のスキルや興味に基づいてやり甲斐のある仕事を見つけ、戦略的な計画を立てることが各自のキャリアをデザインしていく上で重要であることを指導する。具体的には、自己認識、目標設定、スキル開発、市場調査、ネットワーキング、柔軟性と適応力の育成等について解説し、受講生が自分自身のポテンシャルを最大限に発揮できるようになることを目標に指導する。	
専門教育科目	専門発展科目	キャリア支援科目	ビジネスコミュニケーション		ビジネスの場では、英語を使った効果的なコミュニケーションスキルが求められる。この授業では、効果的なメールの書き方、ビジネス会議での発言方法、交渉の技法、電話での対応、プレゼンテーションの作成と実施、そしてチームビルディングの技法など、実践的なビジネスコミュニケーションのスキルを修得する。特に、ホスピタリティ業界やサービス業界でのビジネスシチュエーションに焦点を当て、ビジネスレターや報告書の作成、顧客対応、社内外のネットワーキング、リーダーシップの発揮方法を学ぶ。これらは、「インターンシップ」の事前指導でもある（「インターンシップ」希望者にはこの科目履修を義務付ける）が、卒業後の実際のビジネスシーンにおいても、自信を持って英語を使い、上司や同僚、顧客と効果的にコミュニケーションを図ることができるようになるための科目と位置付ける。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門発展科目	キャリア支援科目	インターンシップ		（分担／4 間瀬幸江(2026年度)、2 吉村典子(2027年度)、6 山口晋平(2028年度)、5 酒井祐輔(2029年度）） 学科の学びや将来のキャリアに関連した就業体験を、企業や組織で行う。インターンシップ先でスタッフとともに働くことで実務を学ぶ。学科の学びと関連した次の3つの業界（研修先）で実施する（①～③より一つ選び、約1週間の研修を受ける）①リゾートホテル機能を有する語学研修施設（福島県：British Hills）、②大型リゾートホテル（宮城県：ロイヤルパークホテル仙台）、③国際交流センター（本学内）。①英語で実務を学び、スタッフやゲストと英語でコミュニケーションをとりながら、フロントやレストランでのサービス体験を行い、英語力とチームワーク力を身につける。②総支配人の講話、グループディスカッション、テーブルマナーやホテルアクティビティ体験を通じて、総合的なホテル運営の知識と実践力を身につける。③海外派遣や留学生の受け入れ業務、関連するイベント運営に携わり、在留資格申請関連業務も経験する。これにより、実務のみならず、国際交流の現場を体験的に学ぶ。①②③ともに、研修の記録を毎日つけてインターンシップ先担当者の確認をうけ、終了時に学科に提出する。研修報告会を行い、省察とともに、体験を言葉にする力を養う。	分担
専門教育科目	専門発展科目	卒業研究	卒業研究セミナーA	○	３年間の学習内容を踏まえ、まず、卒業論文・制作に向けて、受講生が学習してきた内容やそれに関連する分野から研究テーマを選定のために参考となる資料の紹介や助言を行う。テーマ選定後は、各自のテーマについて理解を深め、卒業論文・制作で取り組む課題を具体化させるために必要な資料やデータ等の検索・収集を行ってもらう。授業では、途中経過の発表や討論の時間を多くとり、受講生が主体的に卒業論文・制作を進められるように指導する。	
専門教育科目	専門発展科目	卒業研究	卒業研究セミナーB	○	卒業論文・制作の完成に向けて、各自が収集した資料やデータ等について分析・考察・熟考を繰り返し、それぞれの結論や制作物についての見通しを具体化してもらう。授業では、途中経過について発表や討論の場を多く設けることで、他の受講生の進捗状況と比較しながら各自の達成度を客観的に評価し修正・改善を適宜行えるように指導する。また、各自でスケジュールを管理し、各自の卒業論文・制作の完成形をイメージしながら進めることの大切さを指導する。	
専門教育科目	専門発展科目	卒業研究	卒業論文・制作	○	各担当教員の指導のもと、３年間の学習を踏まえて受講生が各自で卒業論文・制作のテーマを決める。各自のテーマについて、書籍、論文、インターネットやAI等を効率的に活用しながら必要な資料やデータ等を収集し、必要に応じて現地取材等を行い、各自が主体的にそれらの情報を分析、考察、熟考することにより、卒業論文・制作に取り組み、決められた期限までに４年間の学習の集大成としてのレベルに見合う内容の卒業論文・制作を完成させる。	

学校法人宮城学院　設置認可等に関わる組織の移行表

令和７年度	入学定員	編入学定員	収容定員
宮城学院女子大学			
現代ビジネス学部			
現代ビジネス学科	95	-	380
教育学部			
教育学科	190	-	760
生活科学部			
食品栄養学科	100	-	400
生活文化デザイン学科	60	-	240
学芸学部			
日本文学科	100	-	400
英文学科	70	-	280
人間文化学科	35	-	140
心理行動科学科	80	-	320
音楽科	20	-	80
計	750	-	3,000

令和８年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更事由
宮城学院女子大学				
現代ビジネス学部				
現代ビジネス学科	95	-	380	
教育学部				
教育学科	190	-	760	
生活科学部				
食品栄養学科	100	-	400	
生活文化デザイン学科	60	-	240	
学芸学部				
日本文学科	100	-	400	
	0	-	0	令和８年４月学生募集停止
人間文化学科	35	-	140	
心理行動科学科	80	-	320	
音楽科	20	-	80	
英語文化コミュニケーション学科	70	-	280	学科の設置（届出）
計	750	-	3,000	

宮城学院女子大学大学院			
人文科学研究科			
英語・英米文学専攻(M)	4	-	8
日本語・日本文学専攻(M)	4	-	8
人間文化学専攻(M)	4	-	8
生活文化デザイン学専攻(M)	4	-	8
健康栄養学研究科			
健康栄養学専攻(M)	4	-	8
計	20	-	40

宮城学院女子大学大学院			
人文科学研究科			
英語・英米文学専攻(M)	4	-	8
日本語・日本文学専攻(M)	4	-	8
人間文化学専攻(M)	4	-	8
生活文化デザイン学専攻(M)	4	-	8
健康栄養学研究科			
健康栄養学専攻(M)	4	-	8
計	20	―	40